

国際協力の現場を語る

JICA（ジャイカ：国際協力機構）は、開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア（40歳～69歳）を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違ったいろいろな体験をしてくれています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日 時：毎月第3水曜日 15時30分～17時
 会 場：JICA 横浜 会議室またはセミナールームなど
 会 費：無料（どなたでも自由に参加出来ます）
 主 催：NPO「シニアボランティア経験を活かす会」
 後 援：JICA 横浜

（やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページまたは下記問い合わせ先に確認して下さい）
 問合せ先：横浜市中区新港2-3-1 JICA 横浜3階 国際協力連絡室内
 シニアボランティア経験を活かす会 神奈川分会
 Fax:045-663-3263 担当：白井道雄（045-891-5490）
 URL jicasvob.com E-mail info@jicasvob.com



赴任国（講師名）		「タイトル」 講演概要
第115回 3月18日 (水) メキシコ (鈴木 新)		「メキシコでの5S/KAIZEN」 メキシコには、日本の大中の企業が多数進出しており、活発な生産活動を行っているが、ローカルの製造業の生産技術・生産管理はこれからである。私は各地の工業高校の先生方を研修する機関（CNAD）へ派遣され、工場支援の機会は少なかったが、CNADでの5S活動の展開、先生への研修支援、さらに外務省スタッフへの5S研修の機会を得た。これらの活動とメキシコの紹介を行う。
第116回 4月15日 (水) ドミニカ共和国 (山内茂夫)		「ドミニカ共和国の陶芸」 ドミニカ共和国の国立造形美術学校で新規学科の陶芸クラスを立ち上げて、陶芸教育を行った。陶芸教育の中でモノづくりの楽しさを伝えるとともに、第1回陶芸展開催にこぎ着け、教育内容を一般社会にも公開して好評を得た。現地に関心の高かったアニメ、日本語、書道などの日本文化を紹介しながら、異文化交流が楽しく出来て、学ぶことも多かった。
第117回 5月20日 (水) ウルグアイ (松村妙子)		「本があって人がいて in ウルグアイ」 ウルグアイ東方共和国気象局図書室で資料のデータ化を行いました。一緒に作業する司書がいなくてどうやって技術を伝えればいいのか悩みました。結局、技術を教えることはできませんでしたが、図書館や情報に対する考え方を伝えることができ、気象局の課題である品質管理の初めの一步になったと喜ばれました。
第118回 6月17日 (水) ベトナム (塩崎良次)		「ベトナム裾野産業の改善活動支援」 ホーチミンで裾野産業振興チーム（SV8名）の渉外促進として現地中小企業（製造業）の現場における改善活動の支援に務めた。また優良な支援先企業にお願いし「改善事例発表会」を開催し改善活動の普及を図った。その他、現場でほとんど普及していないと思われる技術資料をテキストとして編集し配属先に配布した。
第119回 7月15日 (水) ペルー (佐藤敬子)		「ペルーの高齢者施設での活動」 私は2014年3月から2016年の3月まで、ペルーのベンタニージャにある日系人と日本人のための老人ホームでレクリエーション（編み物・絵・折り紙等）担当として活動しました。利用者は42名、平均年齢は77.5才です。ほとんどの人が認知症や病気を持っており、全面介助を必要とする人が11名いました。